巻末特集 企画する指導者たち その①

ステップで発揮！音楽プロデュース力

～指導者の多彩なアイディアを、オプション企画で実現

ステップも10周年を迎え、円滑なステーション運営が全国的に定着してきた。最近は様々な趣向を凝らした企画・演出が、各地で行われている。より音楽を面白く楽しく演出し、多方面から子供に興味を持たせたい ― そうした指導者の先生方の願いが形になったものだ。

このコーナーでは、2006年秋～冬にかけて開催されたステップより、いくつかのヴァリエーションをご紹介したい。プロデューサーとして、指導者の多彩なアイディアが反映されているので、ぜひご参考にしてはいかがだろうか。

マリンバ×ピアノのアンサンブル
（11/3富士／富士ステーション）

富士ステップにて2台のマリンバによるデュオとマリンバとピアノのアンサンブルのデモンストレーションが披露された。マリンバデュオの曲目は、「剣の舞」、「ホールニューワールド」、「ラグ・タイム」、「カルメン」の4曲。ピアノとマリンバのアンサンブルでは、この夏映画で話題になった「ゲド戦記」より「テルーの唄」。もともとのピアノソロにマリンバで伴奏をつけるかたちのアレンジだ。企画発案者の福沢真理子先生によると、「マリンバを見たのは今日が初めてという子どもたちも多数。マリンバの軽やかな木の音色に、ピアノの音色ばかりが響いていた会場はホッとした雰囲気に包まれたようだった」という。

生徒に夢のステージを～3度目の室内楽＆コンチェルト企画
（11/4　掛川秋季／掛川支部）

11月4日（土）に開催された掛川秋季ステップは、3回目となる室内楽・コンチェルト企画を含め、質の高い演奏が多く、終日会場が賑わった。

室内楽参加者は15組限定で、申込後すぐ定員に達したという人気ぶり。前日にはチーフ・アドバイザー林苑子先生によるアドバイス・レッスンを、全員が受講した。参加者はその夜にビデオで復習し、支部スタッフの励ましメール等にも支えられ、いざ翌日の本番へ。程よく息の合ったアンサンブルに、聴衆はぴたっと息を呑んだように静ま

り、その音色に聴き入っていた。

またエレクトーン伴奏によるコンチェルトに挑戦する参加者のために、掛川支部の天方和希子先生がピアノ伴奏譜をエレクトーン用にアレンジし、オーケストラサウンドで伴奏を務めた。生徒の夢を広げるためにと、楽譜作成から弦楽奏者・機材手配など、全てに配慮が行き届いていた。

また、永田雅代先生（El）と山下富江先生（pf）によるモーツァルト協奏曲第21番第3楽章のデモンストレーション演奏もあり、会場の雰囲気を一層盛り上げた。終演後、集まったコミュニケーションシートの数は100枚近く（これでも通常より少ない！とのこと）、参加者と聴衆が一体になって楽しんでいる様子が伺えた。

ポピュラーも生楽器でアンサンブル！
（11/26 文京春日秋季／TOKYOポピュラーステーション）

11月26日尚美学園バリオホールにて、文京春日秋季ステップが行われた。ポピュラーをメインにしたプログラムの中で、生楽器によるポピュラー・アンサンブルがオプション企画として組まれた。今回はドラム、パーカッション（大澤基弘さん）、フルート（太田浩美さん）を組み合わせるという面白い趣向。定員20名はすぐに満員となり、中には三重県からの参加者も。

多彩なポピュラー・アンサンブルの登場に、会場の聴衆は身を乗り出して熱心に聴き入っていた。特にドラムとのアンサンブルは、静かにリズムを刻みながら、ピアノと一緒にどんどん音楽を盛り上げ、ポピュラーならではのノリが生まれた。フルートの美しい音色も、ピアノの魅力を十二分に引き出していた。何よりもステージ上の参加者が、皆満面の笑みで演奏を終える瞬間が印象的だった。参加者からは「今回のステップは、楽しめるステップでした。フルートの先生やドラムの先生と一緒に演奏することによって、気分ものせられて、私の実力の何倍もの力が引き出された気がします。とにかく楽しむことが出来ました。」（R.Mさん）とのコメントが寄せられた。

ポピュラー＆アンサンブルが盛りだくさん。奄美島唄も！
（12/9，10奄美冬季／奄美連絡所）

奄美ステップでは、ポピュラー＆アンサンブルをテーマに設定。翌日には、講座（「ブルグミューラーで学ぶ、アンサンブル＆ポップス」）も同時開催された。結果、ポピュラー率30%以上、アンサンブル率50%とバラエティに富んだステージが展開された。リコーダー6名とトライアングルによるアンサンブル「きよしこの夜」、ポピュラーアンサンブル「LET'S GO!いいことあるさ」、モーツァルトメドレー「ヴォルフガングの玉手箱」（リレー連弾）、親子アンサンブル「レット・イット・ビー」等々。中でも目をひいたのは、奄美島唄「くるだんど」。ピアノと三味線、唄のアンサンブルで、「くるだんど」とは「空が黒ずんできた」という意味だ。もともとは子守り歌であるとか雨乞いの唄であるなどの諸説があるようだ。翌日の講座も、ステップアドバイザーの江崎光世先生、春畑セロリ先生、糸数ひとみ先生による6手連弾が披露され、会場が沸いた。

写真提供（文京春日秋季ステップ）◎株式会社フォトクリエイト ※写真の無断転載を禁じます。

男の子がピアノを継続するきっかけにもなる！「男の子の部」を企画
（11/3米子／白うさぎステーション）

米子ステップで端を発した男の子ステップ。男の子も参加しやすくなるようにとステップ開催当初（2000年）から行っており、今では鹿嶋ステップ（茨城）など全国に拡がりつつある。今年の米子ステップでは、30名の男の子の参加があった。企画発案者の西野まこ先生によると、自身の発表会でも男の子を集めた部をつくっており、それをステップでも応用したとか。「どうしても女の子の中に男の子がぽつんといる状況になってしまう。男の子がステップの際に1年に1度、顔を合わせる機会をつくることによって、お互い意識しあうことになり、それが結果的にピアノの継続につながります。男の子同士、演奏前の舞台裏で、互いに励ましあっていたりしますよ。『男の子ステップがあるならステップに出る』という男の子も何名もいます。『男の子の部は何とも言えない味があっていいですね』と観客からも評判です。」

ステップ初参加の方も安心！「はじめてステージ」の部
（11/11高岡／高岡支部）

高岡ステップでは、ステップ第2部を「はじめてステージの部」と称し、ステップ初参加の方ばかりが出演する部を設定した。はじめてのステップ参加は、誰しも緊張するもの。そんな方々が、安心して参加できるよう配慮した企画だ。第2部の参加者は計20名で幼稚園生から小学6年までがそろった。第2部「はじめてステージ」の後は、アドバイザーの稲垣千賀子先生より講評をいただいた。普段のレッスンでステップをどのように活用すると良いか？またステップに継続参加する意義とは？等について、今回ステップ・デビューを迎えた小さなピアニストとその親御さん向けて、やさしい口調で語ってくださった。

15名によるお話と演奏　絵本3部作「もりのおくりもの」
（12/24島原／島原ステーション）

クリスマスイブに開催された島原ステップでは、クリスマスにちなんだ物語「もりのおくりもの」のお話を朗読しながら、そのお話に合った曲目を演奏する企画が実施された。演奏曲にお話を結びつけることによって、よりその曲の情景、心情を子どもたちにイメージさせようというねらいだ。発案者は、中村美穂先生。第1部：マリンバやキーボードを使ったアンサンブル演奏、第2部：ファミリー連弾、第3部：アドバイザーの多喜靖美先生によるトークコンサートの3部構成。総勢15名が参加した。

絵本の朗読とコラボレーション
(12/3 大阪中央11月/まいど！大阪中央ステーション)

1999年より継続中の勉強会「バスティン研究会」を母体として発足した「まいど！大阪中央ステーション」(代表：森山純先生)の初回ステップが、昨年11月3日、三木楽器開成館にて行われた。会場には、「まいど！」と大きく書かれた朱筆の和紙が豪快に掲げられ、111組の生徒を明るく迎え入れた。

この日は、「バスティン研究会」の発足当初より、顧問として携わってきた茨城県の藤原亜津子先生がチーフアドバイザー。ご当地ならではのノリで小原久幸先生がワンポイントレッスンに観客を強引に巻き込んだかと思えば、宮崎支部をまとめる立場でもある漆原好美先生の暖かい講評も、初めての開催に花を添えた。

注目を集めたのは、フリーステップでの、絵本の朗読とのコラボレーション。『ちいさなおうち』(バージニア・リー・バートン作)の各場面のイメージに合わせ、ステーションのメンバーがバスティン教材から13曲を厳選。粋な照明ともあいまって、綿密なリハーサルを経た生徒たちの演奏に、会場はじっと静かに聴き入った。

■絵本とのコラボレーション曲の一例

3曲目:鳥の国のインコ(ジェーン・バスティン作曲)、『バスティン先生のお気に入り2』/5曲目:楽しき農夫(シューマン作曲、バスティン編曲)、『クラシックメロディーの楽しみ2』より/6曲目:白いふくろうの飛行(リサ・バスティン作曲)、『コラージュ・オブ・ソロ4』より/10曲目:テレビのクイズ番組(ジェーン・バスティン作曲)、『ベーシックス パフォーマンス レベル4』より

みんなで答えよう「音楽クイズゲーム」
(11/11、12巣鴨秋季/巣鴨ステーション)

巣鴨ステップでは、毎回ステップステージのほかに何らかの企画を入れている。スタッフの先生方による紙芝居(「ピーターと狼」)、アドバイザーによるトークコンサートやレクチャー、参加者全員が参加できる音楽に関するクイズゲーム。今回の「みんなで答えよう音楽クイズゲーム」は、各部の参加者の年齢やレベルに合わせ、楽典や音楽史を子ども用にアレンジした問題を8パターン用意するほど手のこんだものだ。受付でプログラムと同時に問題用紙を各参加者に渡し、講評の時間の後には皆で答え合わせする。企画発案者の上総治子先生よりコメントをいただいている。「ステップが開催できるのは、参加者あってのこと。今日せっかく集まってくれた皆さんとの距離をもっと縮め、ステップを機会にコミュニケーションをはかりたい。」

▲音楽クイズゲームの一例

◎ピティナ・ピアノホームページでは、ステップ開催レポートを随時公開しております。様々なエピソードも是非お寄せください。お待ちしております!

http://www.piano.or.jp/step/

巻末特集 企画する指導者たち その②

岐阜でアンサンブルが花開くまで

勉強会には常に全員が出席。アンサンブル・カーニバルも大成功へ！

岐阜支部にアンサンブル・アソシエ（代表：江崎光世先生）が誕生して4年。横浜のアソシエ（同代表）をモデルに勉強会やセミナーを重ね、2006年12月には第2回アンサンブル・カーニバルが盛大に開催された。カーニバルの様子、4年間のアンサンブルの取り組みについて、日下部仁美先生がリポート下さった。

リポート◎日下部 仁美先生（指導者会員）

12月3日（日）岐阜アンサンブル・アソシエ（代表　江崎光世先生、以下アソシエ）特別企画として、第2回ピアノ・アンサンブル・カーニバルがサラマンカホールにて開催されました。岐阜で江崎先生に連弾からアンサンブルをご指導頂くようになり、第1回のカーニバルからさらに3年が経ち、これまでの成果を発表することができました。

今回の出演者は岐阜アソシエのメンバーの生徒たちで、小学生から高校生まで。横浜アンサンブル・アソシエによる「アンサンブルフェスティバル」のビデオを参考に、ステージでの演奏をイメージしながら練習に臨みました。勉強会で学んだアンサンブルを普段からレッスンに取り入れているとはいえ、実際は戸惑うことも少なくありませんでした。スコアリーディング、自分の役割や共演楽器の役割を知ること、音楽の受け渡し、他の楽器の音色や発音の特性を知ること、息の合わせ方の違い、数人でひとつの音楽を作り上げること等。でも共演者がいることで生徒達がより責任感をもって練習に取り組むことができたのは、アンサンブルならではの収穫でした。

さてカーニバル当日―プログラムはまず1台6手連弾による「パエリアカーニバル」「キャロットタルト・コンチェルト」で幕開け、次に総勢11人による「クリスマスソングメドレー」のリレー連弾を披露しました。その後2台4手、2台8手連弾、弦楽器や管楽器とのピアノトリオが続き、江崎

アンサンブルカーニバル後の感想～先生・生徒・保護者より

【先生より】

2台8手、リレー連弾、どちらもこのコンサートでなければできない事にチャレンジでき、良い経験ができました。江崎先生に教えて頂いたこと―まず楽譜作り、メロディーバスの色分け、この準備が出来てから片手メトロノーム、両手ゆっくりのテンポでメトロノーム付レッスン。合格するといよいよ2人で合わせの練習がスタート。始めは息も合わず、リレーも上手くいきませんでしたが、練習を重ね、ビデオを見てミーティングをするうちに意見がどんどん出て、最後の1週間は熱が入り、皆心を一つにして笑顔で頑張ってくれました。これも普段連弾を楽しんで勉強しているアソシエのメンバー、そして練習日は毎回全員参加！があったからでしょうか。コンサートはどの曲も素晴らしい演奏で、皆さんの成長を感じました。特にリレー連弾は全員がまた一段と仲良くなり、アンサンブル大好きになったと思います。江崎先生も最後までご指導頂き、心より感謝しています。そして企画・準備して頂いた木村様にも感謝の気持ちで一杯です。（川合見幸先生・正会員）

【生徒さんより】

いろんな人のえんそうをきけて勉強になりました。そして11人れんだんはとっても楽しくやれたと思います。（市橋茉莉さん・木曽川東小3）／みんあであわせたらうれしかったよ。ドキドキしたよ（莉子さん・同小1）

【お母様より】

11人でのメドレーリレー、連弾のお話を初めて聞いた時は「何て楽しそう！」と親の私までもがワクワクしてしまいました。いざ練習が始まってみると、課題が多く、どうなる事やらと思いましたが、中学生のお姉さん方を中心に毎週笑い声のたえない楽しい練習時間を共有することができ、次第に「この子達なら大丈夫！」と安心して見守ることができました。当日の子ども達はステージの上でキラキラ輝いていました。その姿に感動でした。（母：市橋理恵さん）

▲岐阜アンサンブル・アソシエのメンバー（最後列左より）：高木雅子先生、窪田直美先生、伊藤章子先生、川合見幸先生、日下部仁美先生、小田晴美先生、吉田真紀先生、松波知子先生、篠田香先生の９名。

先生による演奏者インタビューも行われ、各楽器の魅力をさらに深く知ることになりました。最後はエレクトーンとのアンサンブルによるハイドンのピアノコンチェルト、そしてフィナーレは出演者・共演者全員と客席からも舞台にあがり、「さんぽ」の合奏・合唱で盛大に締めくくりました。

当日アソシエのメンバー9名は、勉強の一環として客席で演奏を聴き、全ての演奏に講評を書きました。「書く姿勢で聴く」と、聴き方が変わるということ、言葉で伝えることの難しさも、経験してみて分かるものでした。ステージでの演奏を聴いていると、これまで苦しかったことが思い出され、胸が熱くなることもありました。しかし生徒たちは皆共演者と心から音楽を楽しんでいるように感じられ、一人一人が輝いていました。また自分の演奏だけでなく、カーニバルのステージ全体を見る、聴くことから学ぶ大切さを知りました。体験して初めてわかることを身をもって生徒たちと経験でき、「音楽の持つ力」の素晴らしさを改めて実感できました。

生徒もアソシエの先生達も、色々な壁にぶつかりながらもそれを何とか乗り越えて、カーニバルを成功させたいという強い思いがあったのは勿論ですが、お忙しい合間をぬって何度も岐阜に足を運んで下さり、厳しくも温かく見守りアドバイスを重ねて下さった江崎光世先生の存在があったことは、いうまでもありません。練習で苦しいなと思っているとそれを察して「途中は苦しいのよ。でも、終わったあとがね・・・」と、言葉をかけて頂いたことでどれだけ励まされたかわかりません。やり遂げた後に何が待っているのかをよくご存知の先生だからこそ、の言葉だと感謝の気持ちで一杯です。ここからまた新たなスタートをきり、学び続けていきたいと思います。

岐阜アンサンブル・アソシエ代表
江崎 光世 先生

岐阜支部・木村剛氏の統率力や企画力、子ども達への温かい眼差し、そして先生方の成長を願う心と情熱が、この岐阜アンサンブル・アソシエの発展に大きく寄与されたと思います。これから全国各地で、指導者の先生方と楽器店が上手に連携しながら、ともに発展されることを願っております。

▲カーニバルの最後は、出演者・共演者全員ステージに上がっての、大合唱・合奏！子供たちは皆、笑顔と達成感に溢れた表情に。

岐阜アンサンブルアソシエ４年間の歩み

2002年度
2月　岐阜支部ピアノセミナー/ピアノアンサンブルを楽しく～アンサンブルの目的・導入方法・教材活用法（音楽的に育てる）

2003年度
10月　セミナーvol1/たかが連弾、されど連弾～連弾レッスン紹介・レパートリー形成
11月　セミナーvol2/表現力を育てる近道はピアノアンサンブルで～子供の意識、コンクール・諸ツールの活用
12月　セミナーvol3/アンサンブルが育てるソロへの効用～記譜法・アンサンブルテキストの紹介・両手のバランス

2004年度
2月　勉強会/アナリーゼ＆演奏　「ツェルニー初歩者のためのレクリエーション」、「ステップアップピアノ連弾vol.2」
5月　勉強会/スコアリーディング（連弾・室内楽）
9月　勉強会/大学までに受けた音楽教育のチェック
9月　ステップ岐阜地区開催（弦のトリオとエレクトーン・アンサンブル）
11月　勉強会/フィンガートレーニング・呼吸法・レガートタッチ

2005年度
1月　勉強会/ステップアップピアノ連弾
2月　勉強会/自分の力で仕上げるには文法（アナリーゼ）
4月　勉強会/ステップアンサンブル課題曲音合わせ・コンペデュオ部門課題曲レッスン
4月　勉強会/指導者による課題曲演奏　コンペデュオ部門課題曲セミナー
5月　勉強会/岐阜大学教育学部　朝田教授による管楽器トリオレッスン
7月　勉強会/ステップ　アンサンブルチャレンジ説明会リハーサル
7月　ステップ　アンサンブルチャレンジ説明会
9月　勉強会/ソルフェージュ入門
10月　勉強会/アンサンブルステップリハーサル（2台ピアノ・弦楽器とのトリオ、ヴァイオリンオブリガート・管楽器とのトリオ・エレクトーン）
10月　ステップ岐阜地区開催

2006年度
1月　連絡会議/2006年度活動計画・第2回アンサンブルカーニバル構成案
3月　勉強会/伊藤章子先生によるエレクトーンアンサンブルレッスン第1回
4月　勉強会/コンペデュオ部門課題曲セミナー演奏者レッスン
4月　勉強会/伊藤章子先生によるレッスン第2回
5月　勉強会/コンペデュオ部門課題曲特別レッスン
5月　勉強会/伊藤章子先生によるレッスン第3回
10月　第2回アンサンブルカーニバル特別レッスン
11月　ステップ岐阜地区開催
12月　第2回アンサンブルカーニバル開催

岐阜アンサンブル・アソシエ活動記録作成
◎岐阜支部・木村剛氏（日響楽器岐阜支店）